



診療支援の新しい仲間たち



## 医療情報管理部 医療情報管理室について

医療情報管理部長 宮入 泰郎

県立中央病院の歴史とともに、診療実績も日々蓄積され、診療録を中心に、医療情報も莫大な量となりました。

医療情報管理室は、診療情報の適正な管理、運用を担い、日々業務に励んでおります。

21世紀を迎え、当院も電子カルテが導入され、その管理内容も随分と様変わり致しました。

この項をお借りして、代表的な業務内容についてご紹介いたします。

- ① 病名、入退院情報のデータ作成、ならびに運用  
入退院サマリーを基に、疾患データを作成、各種調査、学会報告等にデータを提供いたしております。
- ② 診療録の監査  
カルテ記載が適切かを、定期的にチェックし、各科へのフィードバックを実施し、より質の高い診療記録の作成を目指しております。
- ③ DPCに関する業務  
当院にもDPCが導入されました。  
適切な病名コード記載が成されているかを定期的にチェック、検討しております。  
ならびに、全国の病院間でのベンチマーク比較を実施し、当院の医療の質、収益性の向上に寄与すべく情報を提供しております。
- ④ がん登録業務  
県立中央病院は早い時期よりがん登録事業へ協賛していましたが、法制化に伴い、引き続き適正な登録業務を継続し、あわせて予後調査等の追跡調査も実施しております。

代表的な業務内容は上記の如くですが、その他、診療情報に関する実に多彩な業務を担っております。院内、院外の皆様にとって、有用な情報提供に努めて参る所存ですので、今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。



## 感染管理対策部門の現状

感染管理部長 宮手 美治

平成12年に初めて感染対策に関連する診療報酬上の加算が創設されて以来、紆余曲折はあったものの、平成24年に現行の感染防止対策加算となった。当院における感染管理に係る組織も、平成20年に委員会から感染対策室中心の運営に変更され、平成22年に感染管理部が新設され、対応の強化が図られ現状に至っている。

当管理部の現状として、耐性菌を中心にした伝播の予防、医療関連感染症の予防、抗菌薬の適正使用の推進、職員の感染予防等々に関し、種々のベンチマークを定め、改善に向け積極的に関与している他、盛岡圏域内の病院とも連携し、コミュニティー全体で予防対策を図ることにより、域内の耐性菌減少にも努めている。また、当院での感染管理上の最近の大きな動きとして、感染管理部が主体となっていた感染対策から現場が主体となる感染対策に切り替えたことが挙げられる。現場で自主的に対策を練り、実行し、評価することにして、感染管理部では、それを支援する形式としている。



## 地域医療福祉連携室のご紹介

地域医療福祉連携室長 菊池 貴彦

地域医療福祉連携室の業務には大きく分けて、患者さんご紹介の窓口となりスムーズに受診できる準備を整え、紹介元医療機関への返書管理を行う前方連携業務（連携室）と、入院患者さんの病状やご家庭の事情を配慮しつつ他の医療・福祉機関との連携を図り、転院や在宅療養のお手伝いをする後方連携業務（相談室・退院調整）の二つがあります。

当院の地域医療連携室はH2年12月に発足し、当初は登録した医療機関からの紹介患者の受け付けが主たる業務でした。H13年11月にすべての医療機関からの紹介患者の受け付けとFAXによる診療予約を行うよう再構築され、当時の樋口院長の掲げた3020運動（紹介率30%以上、平均在院日数20日以下）のもと、紹介率向上を目指す役割を担いました。

一方相談室の歴史は古く、S35年に医療社会事業士が事務に配置となり、S40年代には医療相談室として業務を開始、S48年から2人体制となり、H17年からは退院調整専従の看護師が配置となりました。

H20年4月、医療を取り巻く環境変化への対応と福祉行政の充実の必要性から、医療局の組織規程により医療連携室と医療福祉相談室とが統合され「地域医療福祉連携室」として再スタートいたしました。望月院長が就任したH24年度からは地域包括連携の構築を重点取組事項として機能強化が図られ、専従事務職員の配置や社会福祉事業士、退院調整看護師が増員され現在に至っています。

現在は事務職員4名（正規1名、臨時3名）、社会福祉事業士5名（産休1名）、退院調整看護師9名（各階ごとに1名配置）の体制で前方・後方連携業務を行っていますが、当院の規模としてはまだマンパワーは充分とは言えず至らぬ点も多々あることと存じます。患者さんと関係各位にご利用いただきやすい地域医療福祉連携室を目指して一同努力して参りますのでご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



## MEセンターからCEセンターそして臨床工学技術科へ

臨床工学技術科 塩原 伸明

臨床工学技術科は平成8年4月にMEセンターとして創設されました。当時は2名でスタートし病棟のME機器調査・登録をしながら人工心肺業務、血液浄化業務、カテ室業務などを行っていました。昔は「MEって何?」「街の電気屋さん」と言われ、時には「電球交換お願い」「めんこいTV映るようにして」と言われた時期もありました。

開設当初は組織上、中央手術部の下にMEセンターとして配置され、平成26年4月にCEセンターに平成28年4月には診療支援部 臨床工学技術科として組織化されました。

現在では医療機器の登録台数は約2300台、中央貸出し機器は約1000台となりました。それに伴いME機器の安全教育として輸液ポンプ・シリンジポンプや人工呼吸器など毎年定期的に開催しています。一方で、臨床業務の多くは業者が介入しているものが多くそこから我々だけで実施するまでにはかなりの時間を要しましたが、一部を除きほとんどは対応可能となりました。手術室、カテ室、透析室、ICU、病棟と院内ほとんどの部署で業務を行うまでになり、現在では、スーパーICUの算定のため24時間在中とする院内待機体制を開始し、夜間・休日の急患にも即座に対応可能としております。しかし、これらの業務を12人で対応しており約20年経過した今でも人員不足についてはいつの時代でも課題となっております。

